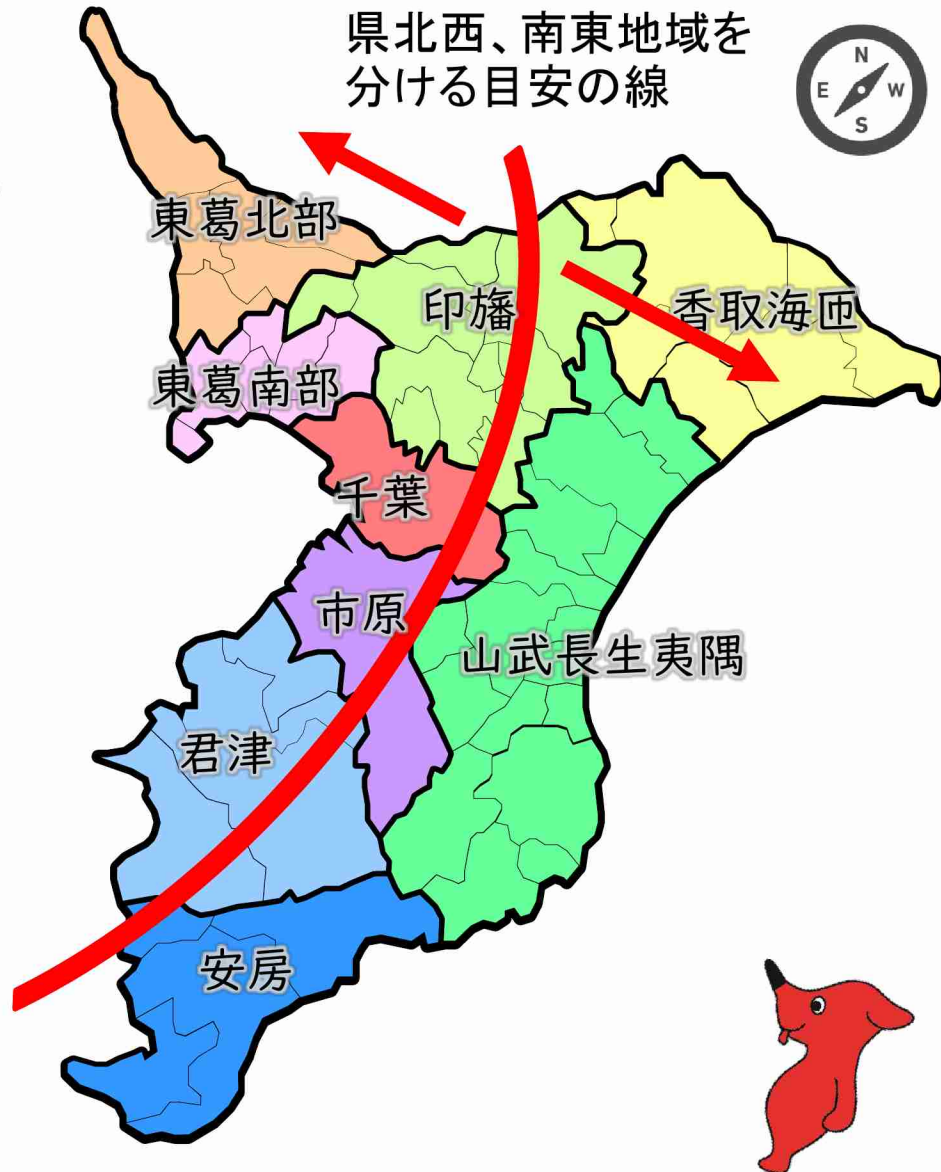


二次保健医療圏域ごとの特徴

- 二次保健医療圏域は9つ
- 千葉県を大きく2分すると、東京のベッドタウンとして比較的人口が多く、高齢化率が低い県北西地域と比較的人口が少なく、高齢化率が高い南東に分けられる

- 人口
 - 最大 東葛南部 1,797千人
 - 最小 安房 120千人
- 高齢化率
 - 最大 安房 41.9%
 - 最小 東葛南部 22.7%
- 面積
 - 最大 山武長生夷隅 1,162km²
 - 最小 東葛南部 254km²
- 市町村数
 - 最大 山武長生夷隅 6市10町1村
 - 最小 千葉、市原 1市



ちば地域リハ・パートナーの指定状況

177機関(2023年5月時点)

分類別	数	二次保健医療圏域別	数
病院・診療所	94	千葉	41
介護老人保健施設	27	東葛南部	30
訪問看護ステーション	24	東葛北部	25
特別養護老人ホーム	4	印旛	24
職能団体	5	香取海匝	13
通所リハビリテーション	1	山武長生夷隅	20
社会福祉協議会	1	安房	4
その他	21	君津	10
		市原	10

千葉県庁ホームページ ちば地域リハ・パートナーについて

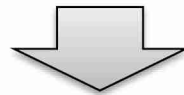
- ・ パートナーの応募要件・業務内容
 - ・ パートナー指定施設一覧
 - ・ 協働状況(活動内容)
- などの内容が記載されています



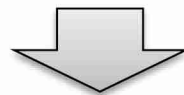
そもそもの私たちの発想

地域リハのCore

- CommunityをそのCommunityに適した状態にする
取り組み
- Communityの自助力と自己効力感の向上



地域 (Community) を Rehabilitation



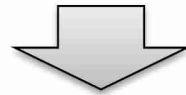
大切なことは「話すこと」「つながること」

県リハ支援センターの機能・役割

地域リハビリテーション支援体制整備推進事業 実施要綱では・・・

- ①広域支援センターへの助言、技術的支援等による事業協力
- ②広域支援センター相互の連携及び情報共有の促進
- ③地域リハに関わる先駆的事例の調査
- ④地域リハ関係機関の情報共有の促進
- ⑤地域リハ関係機関従事者の人材育成
- ⑥地域リハ関係機関や住民等を対象とした普及・啓発

今年の重点
活動項目

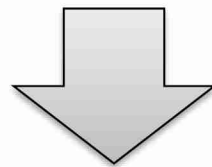


- ちば地域リハ・パートナーのあり方の検討
- 市町村へのリハビリテーション専門職派遣に係る窓口の整備
- 災害に係る地域リハビリテーションのあり方の検討
- 持ち上げないケア浸透の為の仕組みづくりの検討

千葉県の地域リハ支援体制の旗振りは県庁と一緒に!!

地域リハのかじ取り役である県庁担当課と積極的にコミュニケーションを取り、県が考えていること、広域が考えていることをマッチングさせるHUBとしての役割を担っている。

年2回の定期会議

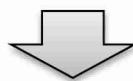


- 定期ミーティング（月1回、開催場所は県庁、千葉リハ交互に）
- 県が同行する広域支援センターの圏域訪問
- 困ったときには、即電話、WEB会議

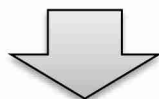
目指すは広域支援センターと共に歩む県リハ支援センター!!

広域支援センターと県支援センター、広域支援センター同士のつながりを太く、強くするため少量・頻回をコンセプトに顔を合わせる機会を年々工夫!!

各支援センター長レベルの定期会議(年2回)



各支援センター実務者レベルの意見交換会(年4回)



○実務者レベルの定期ミーティング(年6回、1回1時間)

広域支援センターが“今”困っていること、話したいことを話し合える場として活用

○年度初めの圏域訪問

全ての広域支援センターに対面で訪問。“顔を合わせて”今考えてることをお互いに意見交換。県リハ支援センターへのリクエストも伺います

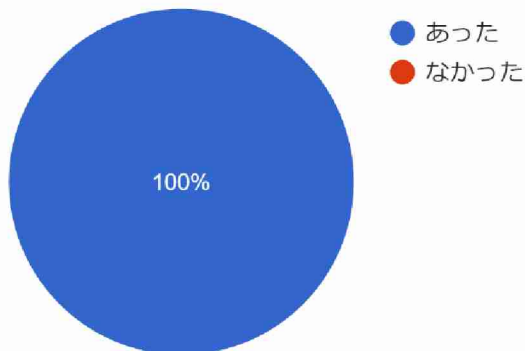
広域支援センター主催の事業、会議への出席や協力も

県内の地域リハ関係者と

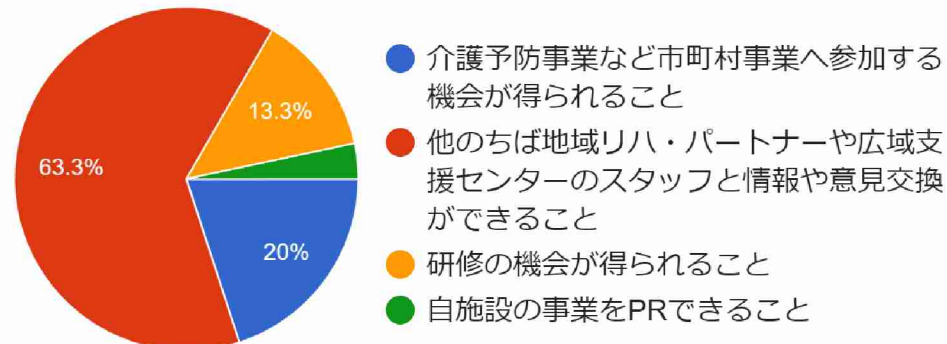
コロナ禍から始めた続けたつながりづくり

- コロナ禍で対面の研修、会議が中止。施設同士の情報交換が制限されたため、WEBでのつながりの場づくりをした
- テーマを設定した“話す場”を提供
 - 新型コロナ下で通所リハ、訪問リハ事業所が困っていることと解決方法
 - 新型コロナ下での地域の高齢者の把握方法
 - 患者・利用者を送る側・受ける側のホンネ
 - 地域ケア会議での助言者としての役割とは？
 - 職場内のコミュニケーション

Q意見交換会で気づいたことやアイデア、
得られたことはありましたか？



Qちば地域リハ・パートナーに登録する
メリットは？



災害時の地域リハ ～千葉JRATとの関係～

- 県リハ支援センターでは、“災害時の地域リハ”をコンセプトに発災時に備え、平時の取り組み
- 令和元年台風15号被害の際には、県リハ支援センター、広域支援センターが千葉JRATの本部運営、派遣チームに協力。千葉JRAT活動終了後のフォローを広域支援センターに引き継いだ

－ 平時の活動

- 千葉県主催防災訓練での災害リハビリテーションの啓発活動への協力
- 千葉JRAT主催のロジスティクス研修会などへの積極的な参加

－ 発災時の活動

- 各圏域同士の被災状況、活動内容の共有
- 千葉JRATの支援活動への人的な協力



台風15号被害の支援活動
と広域支援センタースタッフ

【千葉JRAT（千葉県災害リハビリテーション支援関連団体協議会）について】

- 千葉県の地域JRAT
- 事務局は千葉県千葉リハビリテーションセンター

常に可能性にチャレンジ

様々な分野への地域リハとしての関わり

地域課題解決に向けた
技術活用に関するワーク
ショップ型調査（産業技
術総合研究所）



他府県リハ支援センターとの意見交換会



バーチャルサイクリングにご意見おねがいします
<体験会>3月1日 17:30~18:30 @1階成人リハ室

事前申込
不要

千葉県庁生涯スポーツ振興課では仮想空間内に再現された様々なコースでのサイクリングをリアルに体感できる、バーチャルサイクリングの普及に向けた取り組みをしています。今回、普及に向けたアドバイスの協力依頼がありました



今後、障害のある方や高齢者への展開をしていく上での課題や注意事項について、意見収集を行いたいため、センター職員を対象にバーチャルサイクリングの体験会を企画しました。お時間あればぜひ体験し、たくさんのご意見をお願いします。

参考：県庁HP **高齢者、障害のある方への**
https://www.pref.chiba.lg.jp/shoushupo/new_sports/virtual_cycling.html
バーチャルサイクリングの展開



持ち上げないケア普及する
県医師会をはじめ県地域
リハ協議会構成団体の代
表でシンポジウム

課題・悩み

- 良く悪くも“人”次第
 - “人”のつながりがとても大切。反面、これからも発展し続けるための持続可能なシステムや体制整備をしていくことが必要
- “県リハ支援センター”の役割とは？
 - 本当に必要な県リハ支援センターに近づいているのか？
 - 特に公的なリハビリテーションセンターが県リハビリテーション支援センターを担う役割、その意義を見出したい
- 地域に根ざしたリハビリテーションを展開するために
 - 小児から高齢、障害の有無に関係なく地域で暮らし続けるために地域に根ざしたリハビリテーションが必要。これから活動の幅を広げるため、千葉県の総合リハビリテーションセンターとしてメリットを活かすこと、異分野、異業種とのコラボを実現したい。

県との定期ミーティング@千葉リハセンター



県支援センター

県担当課



広域支援センターへの圏域訪問

県支援センター

県担当課

広域支援センター

小学生を対象とした地域リハ出前講座

県支援センター

広域支援センター



県支援センター

台風15号被害への災害支援
@現地保健医療調整本部

広域支援センター



避難所環境支援に必要な
段ボールベッドの管理・手配

千葉県リハビリセンター
@全国地域リハ合同